

第3章 流域の社会状況

3 - 1 土地利用

流域内の土地利用は、水田や畑地等の農地が約 50%、山地等が約 37%、宅地等が約 13%の割合となっている。六角川本川及び牛津川の中下流部に位置する白石平野は主に農地として利用されている。また、流域内の武雄市、多久市、小城市では、市街化の進展に伴い宅地が増加している。

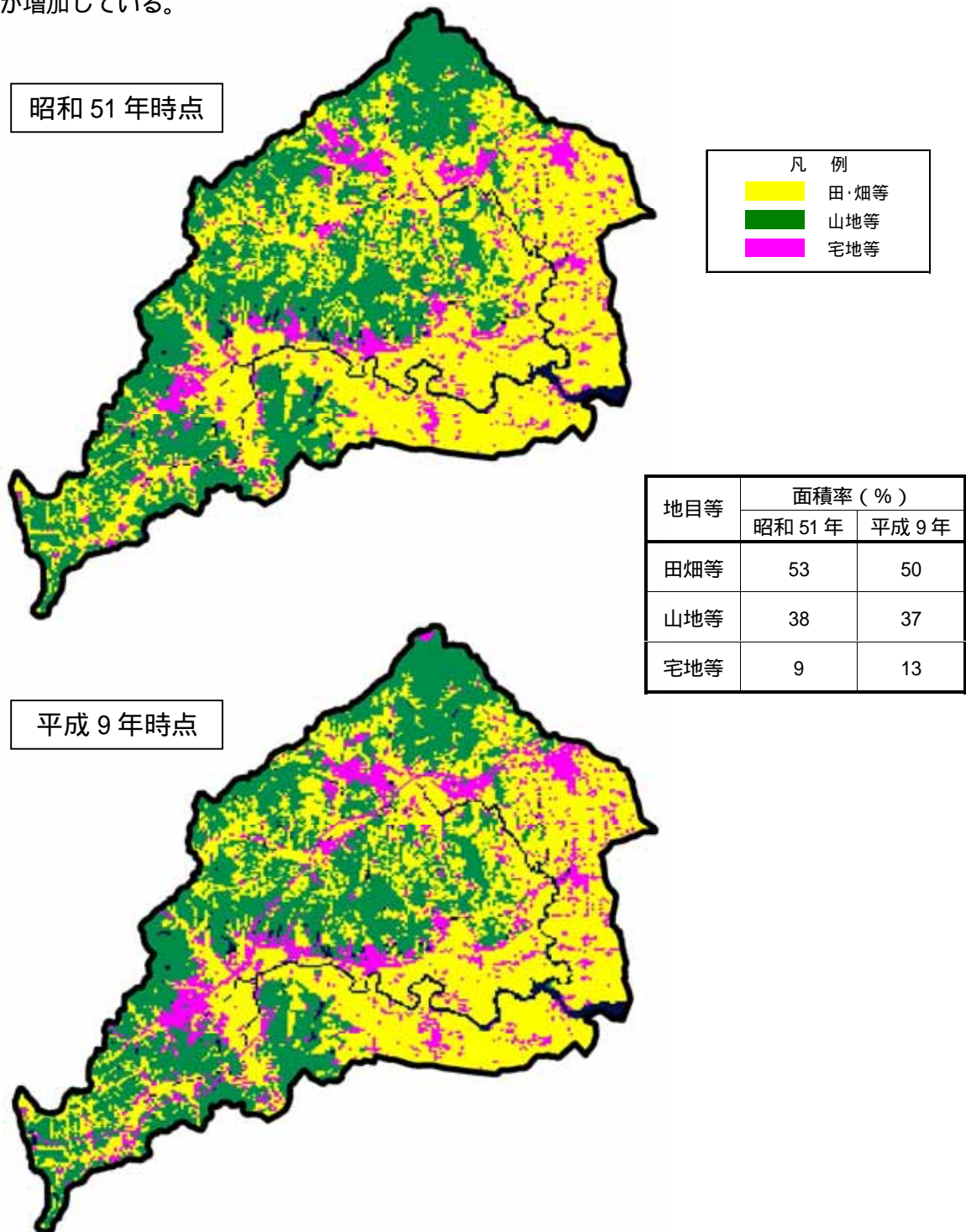


図 3 - 1 土地利用経年変化図 (出典:「国土数値情報(メッシュデータ)」)

3 - 2 人口

流域関係市町は武雄市や多久市をはじめ3市3町からなり、平成12年現在で流域内人口は約12万人となっている。経年的な人口の推移を見ると、近年、小城市は増加傾向にあるものの、他の市町では横ばいまたは減少傾向にある。

表 3-1 流域関係市町及び流域内人口の推移

区分	市町名等	人口 (人)								
		昭和40年	昭和45年	昭和50年	昭和55年	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年
市	多久市	35,985	26,785	25,535	25,636	25,831	25,162	24,507	23,949	22,768
	武雄市	58,343	53,997	52,041	53,156	54,319	54,004	53,943	53,068	51,744
	小城市	40,503	38,471	36,945	37,839	38,915	40,283	43,491	45,375	46,003
杵島郡	大町町	14,740	10,649	9,942	9,776	9,682	9,239	8,787	8,503	7,981
	江北町	14,515	10,546	9,712	9,732	9,728	9,483	9,539	9,584	9,639
	白石町	36,878	34,694	31,974	31,790	31,464	30,539	29,510	28,393	27,253
	計	66,133	55,889	51,628	51,298	50,874	49,261	47,836	46,480	44,873
流域内人口			*165,815	130,238	131,061	134,388	121,573	122,827	120,592	-
関係市町計		200,964	175,142	166,149	167,929	169,939	168,710	169,777	168,872	165,388
佐賀県全体		871,885	838,468	837,674	865,574	880,013	877,851	884,316	876,654	866,835

注1) 佐賀県及び各市町の人口は、「国勢調査報告」(総務省統計局、各年10月1日調査)による。
 注2) 各市町の人口は、市町村合併後(平成20年3月時点)の新市町にて組み換えた人口を記載。
 注3) 流域内人口及び想定氾濫区域内人口は、「河川現況調査」(国土交通省 河川局)による。
 注4) *印は、昭和43年の人口を示す。

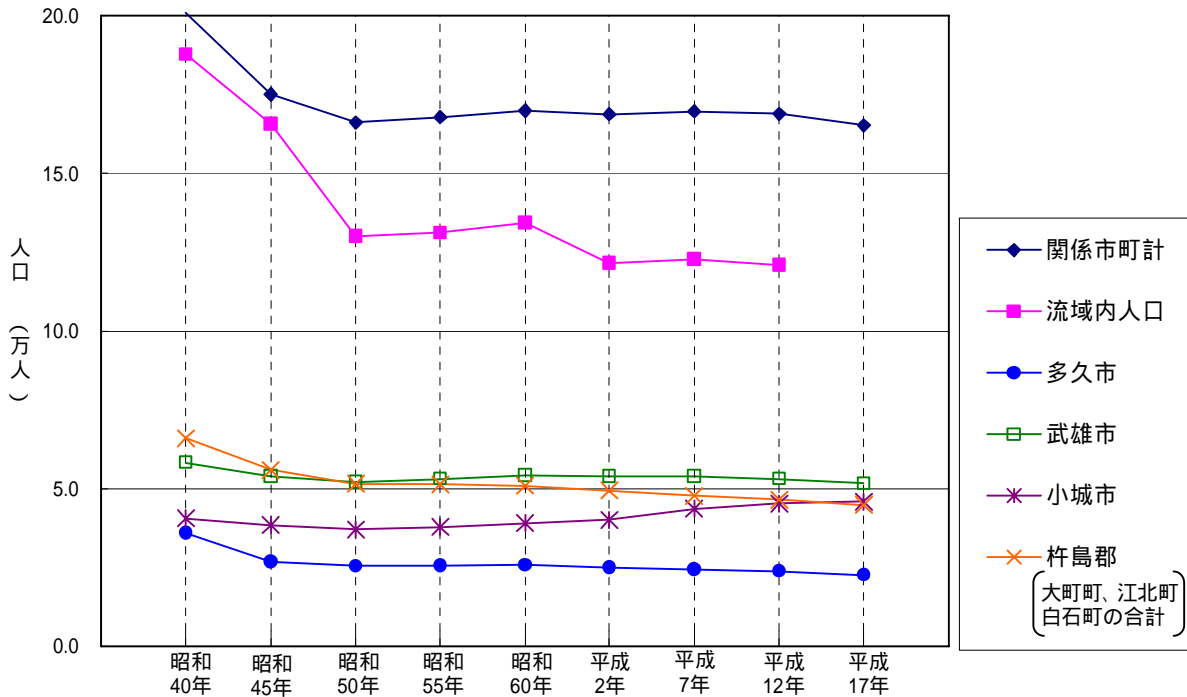


図 3-2 流域関係市町及び流域内人口の推移図

3 - 3 産業経済

流域内の総資産額は平成12年時点で約2兆円で、その約55%は家屋資産が占めている。就業者の産業構造についてみると、流域関係市町全体では、第1次産業が約15%、第2次産業が約25%、第3次産業が約60%で、佐賀県平均より第1次産業が多く、第3次産業が少なくなっている。また、白石平野の中央に位置する白石町では、農業及び漁業が盛んなことから、第1次産業が約30%を占め、他市町の7%～15%よりもかなり多い。

流域内の白石平野は、佐賀県有数の穀倉地帯で、稲作のほか、たまねぎ・レンコン・キュウリなどが主に栽培され、特に、たまねぎの収穫量は佐賀県（全国第2位）の約80%を関係市町で占めている。また、下流部は海苔・貝類の養殖も行なわれ、有明海苔などは特産物として知られている。

その他の産業についてみると、六角川筋の武雄市では、武雄温泉を核とした観光産業や窯業が盛んで、牛津川筋の小城市では羊羹が有名である。

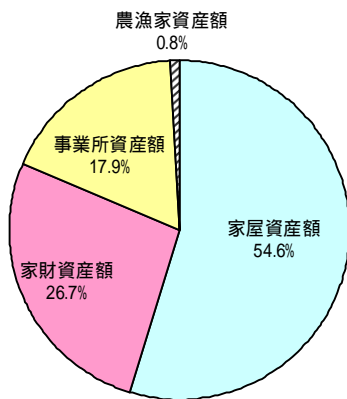


図 3-3 流域内資産の構成

表 3-2 流域内資産額

区分	資産額 (億円)	比率 (%)
家屋資産額	11,143.6	54.6
家財資産額	5,440.8	26.7
事業所資産額	3,643.3	17.9
農漁家資産額	158.6	0.8
合計	20,386.3	100.0

(出典：河川現況調査(基準年：平成12年))

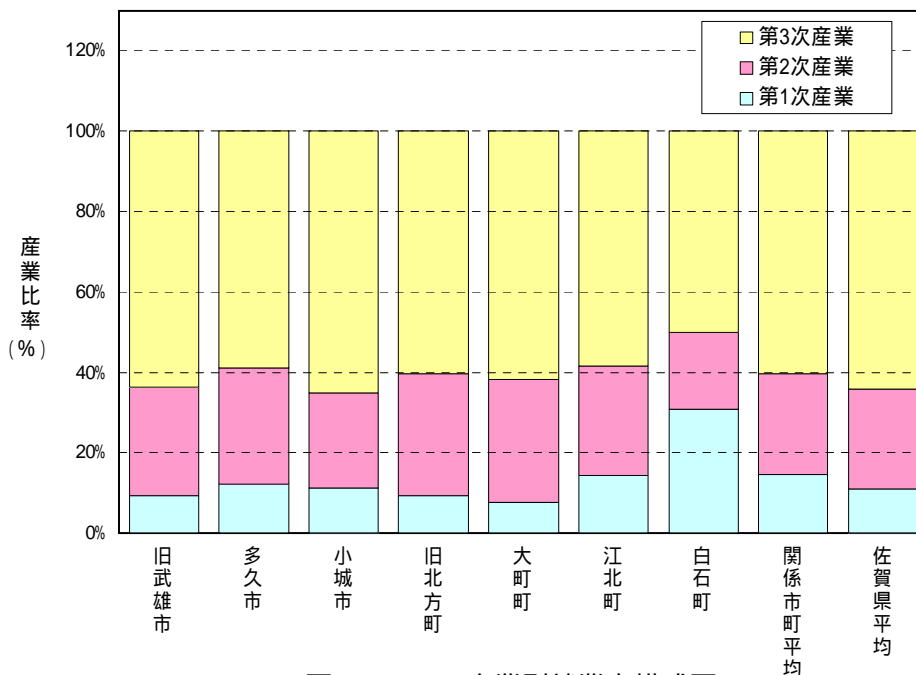


図 3-4 産業別就業者構成図

表3-3 就業者の産業構成 (平成17年10月時点)

市町名	産業別就業者数(人)			割合(%)		
	第1次産業	第2次産業	第3次産業	第1次産業	第2次産業	第3次産業
旧武雄市	1,560	4,494	10,667	9.3	26.9	63.8
多久市	1,332	3,164	6,401	12.2	29.1	58.7
小城市	2,513	5,369	14,666	11.2	23.8	65.0
旧北方町	379	1,243	2,473	9.3	30.3	60.4
大町町	267	1,070	2,160	7.6	30.6	61.8
江北町	668	1,253	2,705	14.4	27.1	58.5
白石町	4,434	2,787	7,207	30.7	19.3	50.0
関係市町 合計	11,153	19,380	46,279	14.5	25.2	60.2
佐賀県	46,533	104,795	270,243	11.0	24.9	64.1

(出典:「佐賀県統計年鑑」(平成18年版))

佐賀県のたまねぎ収穫量
における六角川流域関係
市町が占める割合

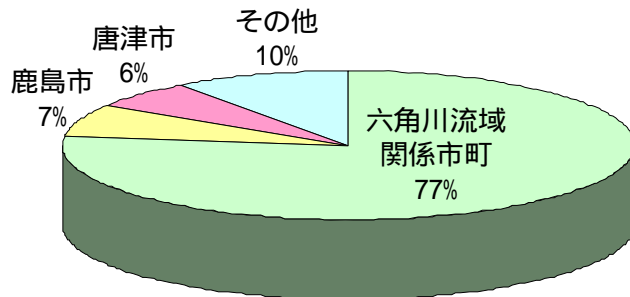


図3-5 たまねぎ収穫量の割合



写真3-1 武雄温泉楼門

[たまねぎ収穫量：平成17年]

市町名等	収穫量 (万t)	県全体 との比率 (%)
流域関係 市町村	11.10	77.4
鹿島市	1.04	7.3
唐津市	0.84	5.9
他の市町村	1.35	9.4
佐賀県全体	14.33	100

(出典:「佐賀県統計年鑑」(平成18年度))

3 - 4 交通

六角川流域の鉄道は、福岡、佐賀から長崎へ至る JR 長崎本線が流域のほぼ中央部の肥前山口で JR 佐世保線と分岐する。JR 長崎本線は白石町を縦貫し、JR 佐世保線は大町町、武雄市を横断し、いずれも九州西部地区の幹線鉄道として、佐賀地方の物資輸送などに大きな役割を果たしている。また、流域の北部を JR 唐津線が小城市、多久市を通り、唐津市に至っている。

一方、道路については、福岡・佐賀から六角川流域を横断し長崎へ至る長崎自動車道及び武雄市から佐世保市へ至る西九州自動車道が走るとともに、佐賀市から武雄市を経て長崎に至る国道 34 号が流域中央部を横断し、主要な幹線道路として活用されている。また、有明海沿いに国道 207 号、国道 444 号が走り、唐津市へ至る国道 203 号、佐世保市へ至る国道 35 号が通過しており、その国道から分岐して主要地方道や一般県道、市町道が整備され、地域の発展に重要な役割を果たしている。さらに、有明海沿岸道路、佐賀唐津道路及び長崎新幹線が整備中であり、地域間を結ぶ有力な交通網として期待されている。



図 3-6 六角川流域における交通体系図